

ロシア・サンクトペテルブルクにあり、同国で最も古い植物園に、ロシア人に人気のある松江市のポタンや県西部特産の石州瓦を使った日本庭園や茶室が造られた。植物園が今年で開園300年を迎えるのを記念して園側が手がけた。関係者は「日露友好のシンボルになれば」と期待している。

(佐藤祐理)

# 島根が彩る

## 松江のポタン

## 屋根に石州瓦

# ロシアの茶室

## 「友好シンボルに」

サンクトペテルブルクのロシア科学アカデミー付属V・L・コマロフ記念植物学研究所植物園。帝政ロシアの初代皇帝ピョートル大帝が1713年に菜園として開設した歴史がある。

日本庭園や茶室を作る計画は2010年頃に持ち上がった。松江市からは以前からロシア向けにポタンが出荷されており、計画を知った県は庭園に植えるポタンの苗木50本を寄贈。

「ロシアを代表する都市の植物園に特産品を使った庭園が整備されれば、販路拡大や経済交流につながる」として、浜田市の貿易商社「LTB」や、江津市の瓦業者「丸惣」も茶室に使う石州瓦を送った。石州瓦は氷点下50度の寒さや風雨にも強く、ロシアではこれまでにも富松層の住宅などに使われてきた。

6月下旬、同植物園で行われたポタンのシンポジウムや南談



サンクトペテルブルクの植物園に設けられた茶室(原提供)

会に、県やJLAなどの関係者が出席したところ、4畳半の茶室と日本庭園が完成していた。出席者によると、庭園には鉢植えのポタンがあしらわれ、ポタン畑もつくられており、着物の植物園スタッフから茶室で抹茶のもてなしを受けたという。

出席者たちはスタッフから、ロシアで茶道や華道を学ぶ人たちが庭園で定期的に発表会を開くことや、ポタンのコレクションを増やしていくことなどを聞かされた。

サンクトペテルブルクは、ロシアの文化の中心地。川のある風景が松江市に似ている。親戚の家で知られるプーチン大統領の出身地でもある。県しまねブランド推進課は「ロシア人がポタンをめながら茶室でくつろぎ、日本の産業や文化」に関心を持ってもらえれば」と期待している。



写真提供

島根県

しまねブランド推進課

貿易促進支援室

福間 猛 主任

